

木野通信

KYOTO SEIKA

第23号

UNIVERSITY

Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community.

This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus event, personnel changes, student news, and perspectives on campus life.

1995年6月27日
京都精華大学発行

京都精華大学 庶務課
京都市左京区岩倉木野町137
TEL (075) 702 5200

四季の草花のことなど

学長 斎藤 博

春がすぎ梅雨をはさんで、また夏が巡って来るころとなりました。さて、唐突ですが俳句一題を紹介しましょう。

朝顔に釣瓶とられてもらひ水
朝がほや一輪深き淵の色
千代女 蕉村

最初の句は江戸中期の女流俳人、加賀の千代が詠んだものですが、若い人には馴染みの薄いものでしょうか。少し年輩の人なら一度ならず耳にしたことがあると思います。井戸の釣瓶に曇がからみ、炊事か何かの水を近所にもらいに行きます、といった風情のものでしょう。この句から感じとれるものは、人のありよう、あるいは事物に対するしみじみとした愛着、想いやりの機微といったものが、実にさりげなく現われていると言えましょう。

遠い記憶をたどるなら、この句を詠んだ人のように「心優しい人物になるのですよ」とよく言って聴かされたのを思い出しています。そのように成長したかはいざ知らず。この草花には感慨深いものがあり、また真夏の季節を好むこともあって、毎夏庭先に咲かせるのを習慣のようにしております。去年などは、花を種が思わぬ処から芽を出して、花を落とした梅の枝からみつき、今日一輪、明日一輪と紫がかった群青色の花を咲かせてくれました。夏の透明な光と影の交叉した木陰に、有るかなきかに咲く朝顔の、はかなくも美しい佇まいに画題をそそられたものでした。



すこしづつ植えた木や草花が、いまでは処狭しと繁っております。

山茶花、戴帽、紅梅、木蓮などは冬の終わりから春をまたいで花を咲かせます。垣根の連翹が花を落とし、今は山藤、山吹、梅雨に入ると紫陽花が、そして夏の陽ざしに映えるように凌霄花、ジャスミン、つる薔薇、時計草などが香りを放って競うように花をつけます。秋はイチョウや紅葉が色づき、彼岸花や野路菊、ドクダミなどの小さな花々を楽しむことができます。種々の毛虫に悩まされ、枝の剪定に精を出し、土を肥やし、丹念に眼と手を掛ければ、花は咲き乱れ、季節がめぐってまた芽吹いてくれるのです。

さて、晴たの露露の如く学長職を賜ることになりました。思い起こせば六〇年代後半の短大創立間もない頃、本学も学園紛争の唯中に在り、連日のように全学集会が開かれ、教職員に対しても当然ながら、批判・詰問の矢が向けられました。未熟にして無力、ただ茫然と立ち尽くしておりました。「日常の実践の中から、時間をかけて答を出していきたい」と、辛うじて言葉にしてみるばかりでした。

あの時から長い歳月が経過して、この大学に対して何ができるのか。いま改めて淵に立たされていることを強く自覚せざるを得ません。

しかしながら、世界はいま不透明にして漠然とした閉塞状況の中に在り、私達は世紀末を体験しており、二十一世紀を目前にして、社会や大学を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。

しかも、今年になってから日本の現実を覆い尽くしている出来事の数々は、無力感に陥り、心の空白を招き、そして精神を荒廃させ続け兼ねない深刻な事態にあると言えましょう。それでもなお、いたずらに閉鎖的な懐疑に陥らず、希望や信頼を語り、回復し、人が生き生きと息づく空間や場を創り出したいものです。

私達の大学は学問・文化・芸術を旨として立てております。その足場を固め、学生諸君とも課題を共有して、一人一人が強く在り、真摯に難問に向かっている持続力、そして熱意を積み重ねていくことが必要でありましょう。

木野の里は、今年もまた山ツツジやミモザが美しく咲き、新緑が目に見え、芽吹いております。

京都精華大学 1996 年度入試日程

試験種別	出願期間	入試日	合格発表	手続締切		
人文	指定校推薦	11月1日(水)~11月6日(月)	11月12日(日)	11月17日(金)	11月27日(金)	
	公募制推薦	11月1日(水)~11月13日(月)	11月19日(日)	11月30日(木)	12月14日(水)	
	一般一次A方式	1月16日(火)~1月29日(月)	2月11日(日)	2月19日(日)	2月29日(水)	
	一般一次B方式	1月16日(火)~1月29日(月)	2月12日(月)	2月19日(日)	2月29日(水)	
	一般二次	2月15日(木)~2月23日(金)	3月1日(金)	3月11日(月)	3月21日(水)	
	自由選抜	12月11日(月)~12月19日(火)	1月16日(火)	1月22日(月)	1月31日(水)	
美術	公募制推薦	11月1日(水)~11月13日(月)	11月25日(日)	12月4日(月)	12月18日(月)	
	一般一次	1月12日(金)~1月26日(金)	2月7日(水), 8日(木), 9日(金)	2月21日(水)	3月4日(月)	
	一般二次	2月16日(金)~2月26日(月)	3月6日(水), 7日(木)	3月15日(金)	3月22日(金)	
人・文のみ	秋期	留学生 帰国生徒	6月19日(金)~6月28日(水)	7月17日(月)	7月24日(月)	7月31日(月)
人・美	春期	留学生 帰国生徒 社会人	12月11日(月)~12月19日(火)	1月16日(火)	1月22日(月)	1月31日(水)

※出願は消印有効。

入試広報室 075 (702) 5100

受験生相談フリーダイヤル 0120-075017

'94年度 卒業式

三月二日明窓館において午前の部美術学部、午後の部人文学部の卒業式・学位記授与式が行なわれ、十七名が卒業生、二〇六名が卒業、人文学部は大学院研究生十七名と学部生二十七名が卒業しました。

本学吹奏楽部が卒業を祝して、「第七魔法」による八声のカンツォン第一番」を演奏し、その後の歓迎パーティでは卒業生も晴れ着姿で演奏に加わりました。(演奏の前面には「義援金箱」が置かれています。)



1994年度 京都精華大学・大学院卒業式



四月一日明窓館において午前の部美術学部、午後の部人文学部の春期入学式が行なわれました。

美術学部では大学院研究生三名と学部生が四十二名入学、人文学部は大学院研究生五名と学部生三十七名が入学しました。

本年度は四月一日より斎藤博新学長が就任され、美術家らしい映画や音楽の話がふんだんに盛り込まれた学長挨拶がありました。

学内の桜はちやうどこの日開花が始まってとどろんどろろがはじまりました。その後は時々雨混りながらもサクラの春爛漫となり、オリエンテーション中は律儀に学生諸君に付き合っていました。

'95年度 入学式



学校法人木野学園 京都精華大学役職者一覧

理事長	笠原 芳光	(法人本部長)
学長・理事	齊藤 博	(総務部長)
専務理事	杉本 修一	(美術学部教授)
常務理事	景山 喜巳	(人文学部教授)
常務理事	松谷 昌順	(美術学部長)
部長	片桐 充	(人文学部長)
	小藤 陸一郎	(美術研究科長)
	藤枝 澤子	(人文学研究科長)
	吉富 康夫	(事務局長・庶務課長兼務)
	田 劭	(企画室長)
	松浦 逸郎	(教務部長)
	吉栗 村満	(学生部長)
	栗村 富美夫	(図書・情報館長)
	稲浦 嘉	(国際交流室長)
	福小川 了	(広報部長)
	中平 佳男	(就職課・就職課長)
	田所 伴樹	

*退職

氏名	所属	発令日
柴谷 篤弘	京都精華大学学長	平7.3.31
潮 隆雄	美術学部デザイン学科(兼職)	平7.3.31
津田 元一郎	美術学部	平7.3.31
波邊 昭五	人文学部人文学科	平7.3.31
末石 富太郎	人文学部人文学科	平7.3.31
山田 富美子	事務局施設課	平7.3.31

*採用

氏名	発令日	所属	職名
上野 真知子	平7.4.1	美術学部デザイン学科(専職)	助教授
新井 清一	平7.4.1	美術学部デザイン学科(兼職)	助教授
細谷 周平	平6.6.1	教務課	
熊谷 徹	平6.11.1	図書・情報課	

*95年度海外研究員

中島 勝住	人文学部	オーストラリア・ブリスベン	1995.4.1~1996.3.31
黒崎 彰	美術学部	アメリカ・コネチカット大学	1995.9.1~1996.8.31
フィリップ・J・4ワット	人文学部	海外及び国内	1995.4.1~1996.3.31
以上 本学資金による			
ディビット・ゴケット	人文学部	タイ	1995.9.1~1996.4.15
以上 学外資金による			

新任教職員 からの一言

デザイン学科

建築分野 助教授 新井清一
13年間の米国在住から東京へ、そして今年4月より京都へと落ち着き、新しい生活が続いています。しかし、より多くの都市の中で生活できるという事は楽しいことだと思っております。京都は好きな街であり、そして京都精華大学の建築はよい印象を受けているし、又、可能性を内包した大学であると思います。

デザイン学科

テキスタイル分野助教授 上野真知子
4月よりテキスタイルデザインに就任しました。さすがに精華大学らしい、自由な雰囲気はホッとします。けれども自由ということは、結局自己の責任が大きいということでもあり、改めて緊張しています。学生達の貴重な月日に、少しでも役立つことができたいと思います。

事務局教務課

細谷 周平

事務局図書情報課

熊谷 誠

修士論文公聴会と達成感の演出

末石 富太郎 (前・人文学研究科長)

京都精華大学大学院人文学研究科は去る二月六・七日の両日、第一期修士課程学生七名の修士論文公聴会を開催しました。発表者と論文の主題は次のとおりでした。

△二月六日▽
奥田千愛「海を渡った花嫁たち 松尾 真 国家の相対化と新しい世界像」
深井千枝「19〜20世紀前半のポーランド・ロシアのユダヤ人社会とイデオロギア」
加藤健一「社会・文化と和」
△二月七日▽
梅田知子「タイ山岳民族、スゴウ・カレンの民族衣装」
堀田敦子「市民による環境ネットワーク構築にむけての一考察」
田村 武「文化化される環境」の史的探究

各論文のさわりの部分を解説しておきましょう。奥田さんは精華大学と協定しているアメリカのアンドイ・オーク大学の卒業生で、滞米中に知ったかつての戦争花嫁カケハシさんらが差別・偏見の中で生き抜いた記録を論文化しています。西海岸の一・二世の場合とは違い、マイノリティ・スタディの立場からしても時代的に地域的には忘れ去られてしまう可能性がある対象です。奥田さんの本人になりきった語り口は非常に迫力がありました。

松尾さんははれつきとした社会人ですが、独力で研究に着手していた冷戦後の世界政治の構造について世に問いたい、という目的意識で大学院に入学してきた人です。多くの著名

な政治学者は民族紛争や文化摩擦面から世界を觀察していますが、彼はグローバルの新思考に代表されるような非・権力志向連帯社会として国家が相対化されるという壮大な理論を提示しました。

深井さん長い滞欧経験をもつ社会人です。今回の研究もセンス・オブ・ワンダーに満ちた彼女の半生と明らかに繋がっています。日本でも上演された「屋根の上のバイオリン弾き」は有名でも、その原作がイディッシュ語であるとはあまり知られておらず、「さたない」ドイツ語と蔑視されたイディッシュ語とその背景にあるユダヤ人差別観の誤りを剔した点が高く評価されました。

加藤さんも複数の会社社長をしながら入学した人で、多忙な毎日の寸秒を集めて分厚い論文をモノにしてました。「和」は聖徳太子以来日本の組織を人間の集団として考察する過程で、日本的な「和」の存在を問題視しながら、21世紀の国際的経営理念にむかって、人間の尊厳を土台とした「和」をいっそう止揚することにあるとした論が、思想・哲学の範疇に達したものと認められました。

梅田さんの三人はイディッシュ語を専攻する人文学部から進出しています。梅田さんの研究はタイ・フィールドワークでの見聞が下敷きになっていて、もちろん大学院入学後に再訪して綿密な現地調査をしています。研究内容が文化人類学的にはまだ未熟さを残している指摘されましたが、衣裳の変容と「なぜ女性性？」という女性労働との関係など、女性学的エッセンス・アイデンティティ研究のト

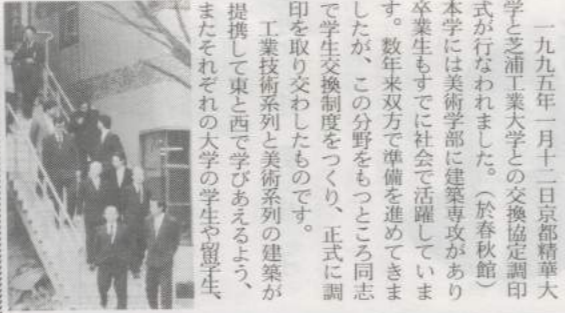
バ口を開いた論文になっています。堀田さんは、千里リサイタルプラザの市民研究所でボランティア研究員の面倒をみながら、日常遭遇している研究員に提供すべき情報の問題や相互連絡上の難題をいかに解決すべきか、という意識が研究の発端となっています。チェイン・レター方式を採用した調査から、掲示板方式でない「書き込み自由の閲覧板方式」のネットワーク形成が必要かつ可能という結論は、奇しくも論文執筆後に起こった阪神大震災のボランティア活動の実態で証明された形になりました。

田村さんの「環境の文化化」という概念は堀田研究とも共通項があったり、環境問題が人間生活に文化として定着したかいないかを判断するにはいかに広大な史的視野が必要かを訴えたのだともいえます。犬という動物を代表として、それが図絵などの記録に現れ、ペット化し、衛生的消費の対象になり、環境も含めた動物園として展示対象化するという認識枠組を示したのです。次は猫、というわけにはいきかねますが、きつと真似をする人が出るでしょう。

さてこれら七編の修士論文が人文学領域にいかなる足跡を残したことになるのか、煌星のごとき先人の業績にくらべると数粒の砂を撒いた程度といえませんが、しかしこの二年間とそれ以前の準備期間に、当然の職責であるとはいえ、第一期の研究科長として立ち会うことができた喜びはひとしおのものがあります。その理由は、前記のとおり、研究科が標榜してきた「知の総合化」「行動

芝浦工業大学と 交換制度調印式

一九九五年一月十二日京都精華大学と芝浦工業大学との交換協定調印式が行なわれました。(於春秋館)



土曜日の午後寒い中、社会人多数の出席があり、学生年末試験期間中ではありましたが、本学学生の熱心な姿も見られました。

とくに電気・自動車・銀行関係の姿を檢証しながらさらさら均等にセンターについて面氏の発言があり、会場からは、就職を目前にして自分の希望する会社はどこな会社なのか知りたい学生とダンスから始まりました。5月末から内々定の報告が入っていますが、就職は周囲の人々とか就職部が決めてくれるのではなく、本人が自分を企業にPRし、売り込むということを実践した諸君は結果、就職部に笑顔を見せてくれました。

△一・二・三年生の諸君は 早期の心構えと実践の準備を 就職には、だれでも何か「こだわり」をこく当たり前に持っています。職種や業種、あるいは企業規模や勤務地についてなど、「こだわり」を

やかつての就職難を体験した主婦、会社で女性役員職に戸惑いを感じた中高生男性の感想を、男性・女性を問わず熱心質問や意見が出ました。

実現するには準備と努力しなくてはなりません。就職部では専攻の三年生以下を対象に「マルチメディア体験講座」を開きました。定員を大幅に上まわる受験希望がありました。七月、九月にも計画しました。公務員試験講座、パソコン、ワープロ、英検などを積極的活用することは、「こだわり」実現の方法といえるでしょう。授業、課外活動なども社会人への道に就職の準備であることは言うまでもありません。

就職部から

就職部から

阪神大震災において私達ができること

(1月26日) 日野 靖

一月十七日に兵庫県南部を襲った地震は非常に大きな被害をもたらしました。これについてみなさんはどう思ったでしょうか。地理的に京都に近いこともあり恐ろしく感じたでしょうか。あるいは、神戸では災害の状況がひどいのに、京都ではそれほどでもないの、その差に驚いたのでしょうか。私の場合は、昨年の暮れに起こった記憶に新しい、「三陸はるか沖地震」をいかに傍観視していたかということに思いがしました。

同じ日本で起こったことであるのに、何か遠いところで起きた災害だと思っていたのです。しかし、今回の身近に起こった阪神大震災で、同じ災害を傍観視していたことを情けなく恥ずかしく思いました。天災は人間の都合に関係なく無条件に起きるものだと実感しました。

現時点で、地震発生から一〇日が過ぎています。そして、被災地では数え切れない多くの方々の懸命な努力や支援によって復旧・復興へと確実に向かっています。それにはもちろん被災者自身の頑張りや気力が重要となっていますが、それと同時に

淡路大震災

他地域のみんなの協力も必要とされています。そこで、私達が私達の範囲でできることを考えてみて欲しいのです。それには次のふたつの点が考えられないでしょうか。

ひとつは「精華大生として学内に目を向けた場合です。被災地を住所にもつて在学は全体の約一人割のほりです。また今後の受験生や入学者もおよそ同じ割合にのぼると思われまます。その被害は様々ですが、今後の学生生活に支障をきたすことは確かです。例えば、家屋や資産を失ってしまったって経済的に学校を辞めざるをえないと諦めている学生がいるとします。もし、本当は学生生活を続けたいという意志があるならば、彼らに対して何かできることはないでしょうか。精華大生はすでに五〇〇〇万円を目標とした基金づくりを始めることを表明しています。他大学でも同様の動きがあります。ただ、この基金づくりの事実を他人事ではなく精華大学の「一学生として実際に認識してほしいのです。実際に学生が主体となって五〇〇〇万円の基金を集めることはいかに「学校側がやるからいいや」と簡単に思っただけで済まないのです。大学は学生がいてはじめて成り立ちます。そして、その学生が率先して、学生の意志が反映された大学をつくるのが学生自治には当然のことではないでしょうか。幸いにも、学生の意見をまとめる機関の自治会が存在します。予期しない災害によって学生が困ることが予想される時にこそ、みなさんが参加して、助けを必要としている学生の受け皿づくりができないでしょうか。精華大学の建学理念である自由自治の自由だけに着目して「そんな、だれかがやるやん」というふうでは、自由の意味を履き違



えているように思います。次に一人として他人を重んじた場合です。「隣人が困った際にわたりの心を持つ」という基本的な道徳をもとに、精神的な受け皿づくりを行うことでも十分価値があると私は思っています。困難を強いられる学生に「よしんや、なんか困ったことがあったらいいや」の問いかけや、「よしんや、こういうことをしてほしいんか、まかせとけ」というように、必要があれば助ける行動力を備えてほしいのです。ただ、盲目的に「これやっただら、あれもやっただら」と干渉し過ぎるのではなく、気を配りながらかつ、必要に応じて行動するということです。

まとめてみると、私はふたつの合い反するようなことを書いたかも知れませんが、まず、日々の席を同じくする友としての、大学内での積極的な連帯です。学生の関係が希薄だと感じるたびに特に強く「連帯感」が必要であると思うのです。次に、連帯して行われることの内容は、他人(困難を強いられた学生)の意志が尊重されたものでなければならぬと考えます。これは単に消極的であること、とらえてほしくないのです。私はこれをおおげさですが「非おせつかいの人々幸福」と考えています。そうならば、被災地を興味本位で見たり、商品化したテレビの報道や、扇動的な流言や噂といった非人道的なことがなくなると思うのですが、みなさんはどう考えるでしょうか。

阪神大震災を体験して

(人文四回生) 小野 佳子

一九九五年一月十七日未明、私は阪神大震災を体験した。パリパリッという地震きとともに激しい揺れが続いた。まるで自分という存在が、何かの大波に乗っている一つの点のようだった。体をこわばらせて私は恥も外聞もなくただ布団の中にいた。どれぐらいの時間がたったのかわからず、ようやく揺れが治まってきた。何かなんだか全くわからない。暗闇の中で消防車が救急車のサイレンが



え、少し安心した。「ガスは？電気は？」と周りのことがきこえなくなった。でもすぐには体が動かなかった。ロウソクの火で部屋の状態を確認し、ふと窓の外をみると、遠くの方で火の手が上がっていた。電気はその日のうちについていたと思う。TVで見ると、いっしょに物が落ちてくるかわからない。信号もつかないのに車は流れ、人々が食品を売っている所を探したり電気屋に行ったりして、石油ストーブを引っ張り出し、空気を暖めていた。おじさん達がいたが、何の顔色も変えずに空を見つめていた。見る物全てが「普通」でなかった。三ノ宮のビル街はTVに出たように壊れており、生田警察署は何か制服を着た大きな男達で一杯で、交通手段について何の情報も得られなかった。公共電話も行く所行く所使用不能だった。私はひどい頭痛で寝込んでしまった。「現実」を体が拒否してしまっただけだと思っ。それでも二日、三日後には何とか歩いて西ノ宮まで行けるくらい元気になった。生活環境が破壊されパニックに陥っても私ってなんとか生きていけるものだなあと思っ。

震災特別入学試験実施

例年、地域から志願者および入学者は本学では全体の約一割になります。二月の一般入試受験が困難なひとのために、三月、四月、五月の日程で特別入試を設けました。

【対象者】
1 神戸市、淡路島、芦屋市、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市、川西市、出身者で二月一般入試受験が困難な者。
2 被災あるいは救援に加わるなどの状況から、二月の一般入試受験が困難な者。

【定員】
美術学部・人文学部とも各一〇名
この結果、美術で一〇名、人文で六名が合格しました。

阪神大震災に対する個人的な活動報告書(要約)

日野 靖

地震の後、十七日から二日にかけて行ったことは神戸市の都市計画の旨点を書き出したことである。経済優先、集積の利益重視の都市づくりを憂いたのである。しかし、※と言いつつなるのをこらえるのが大変でした。それでも、なんとか無事に仕事を終えることができました。

今後、長田だけでなく、壊れた街を再興していくにあたって、全てを国や自治体任せにしてしまうと、ほんでもないことになりそうです。ボランティア活動をしながら、いろいろな物や事を見たり、聞いたり、考えたりして、ほぼ確信しています。僕を含めた神戸市民が、これからはいかなければいけない事があり、それ次第で神戸の街の明るも分かれるのではないかと思います。

机上で物事を憂慮することよりも実際に困っている人を助けることの方が優先されるべきと考え、実際の行動に移した。そうしなければマスコミのワイドショーの報道と同じである。まず、学内被災学生の詳しい情報を得るために学生課へ向かうが、ブライバシー問題であることを理由に情報はなかなか公開されず。私達の働きかけに対し保守的な態度があり、残念であったが、根気強く掛け合うことに努めた。

次に、多くの学生へ喚起するため自治会の中央委員会のメンバーと話すのが重く動かし。

京都精華大学救済有志の会をつくり旗揚げ(二六日、立看板に趣意をを、個人的な震災考(「阪神大震災」において私達ができること)を二七日にキャンパスにて六〇〇枚配布を表明する。

学外有志と連携をとるために立命大へ赴き、他大学ともネットワークをつくることに努める。これは、後に非常に有益であった(震災ボランティアのみならず、他の活動へ参加する機会が得られた)。

一月末に学内でボランティアを集め、その直後から二月末まで、実際に現地で作業に従事する。主に灘区

大学の援助基金

- 阪神・淡路大震災にともなう「被災者援助基金」を設置(九五年一月三日)
- (一) 前期学費の減免(入学金を除く)
(二) 前期学費相増額の貸与(入学金を除く)
- (三) 短期貸付制度(金額一〇万円、期間一年)の設置
(四) 被災による休学者の休学納付金減免
(五) 推薦入学者の入学辞退に対して納付金の返還(入学金を除く)
- (六) 震災特別入学試験の受験料免除(必要と認められた場合)
(七) その他
- (一) 「被災者援助基金」の概要
① 基金総額六千五百万円
(二) 資金調達計画
① 専任教職員 五人
② 非常勤教職員 九人
③ 在学生 四九人
④ 入学金予定者 三人(推薦免除者)
⑤ 被災地域居住の卒業生約五〇〇人

神戸市民として

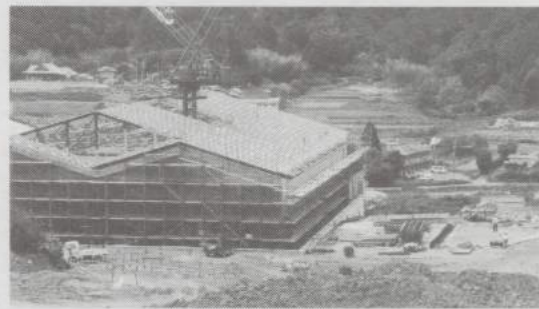
僕は三月の初めの頃に、神戸市須磨区にある実家に帰り、近所であつたボランティア活動をしていました。実家の辺りは、地震の被害が比較的小さく、僕の通っていた小学校と中学校が避難所になり、そこへ被害の大きかった所から多くの人達が避難してきていました。中には、シンナー中毒の人達が混ざっていたりして、問題にもなっていました。小学校のほうで、僕の母がボランティアをしていたので、僕も手伝わせてもらいました。一週間程して、救済物資の仕分けをする仕事に移りました。それから、さらに一週間程が過ぎたころに、大学の仲間から連絡が来て、長田区へ出向くことになりました。

所にある、居住ブロックでは、わりと困ったことが多かったです。僕達が調査をしているのと同時に民生委員なんかも同じく調査をしていて、僕達と共に行動していた人の中には、「民生委員が動いているのに、どうして同じことをするのか。」などと言って怒る人もいたので、「お前は何もわかってない。」



長田でぼくたちは調査活動のボランティアをしていました。長田の多くの場所(とくに、今回、広範囲に壊れてしまった場所)は道が狭く、救急車以上の大きな車は入りにくいような状態で、火事でもなければ逃げることが困難な場所でした。僕が高校生の頃、よく一人でフラフラしてた街であり、それはそれで風情のある街だった、と僕は思っています。その長田で、僕は手助けを必要としている人達がいるかどうかの調査をしていました。幸い、僕がパートナーの女の子と二人で回った地区は、「自治会」というものがしっかりしていて、ほとんど異常なし、だったのですが、少しはずれた

特集 阪神・ボランティア



(工事中の体育館)



('95.6.1 現在)

施設整備総合計画第2期工事

[平成7年9月竣工、10月7日竣工式典予定]

- ☆体育館 延床面積 約3,300㎡
 - 1階 メインアリーナ、ロッカー室、シャワー室
 - 2階 トレーニングルーム、講義室1、研究室1
 - 3階 サブアリーナ、研究室4
- ☆厚生棟 延床面積 約2,200㎡
 - 1階 食堂、テラス、レセプションコーナー
 - 2階 喫茶ラウンジ、和室、購買部(文具・画材・書籍)
- ☆クラブボックス 延床面積 約950㎡
 - 南棟1階 部室7
 - 自治会、学友会、実行委員会、会議室
 - 2階 音楽練習室4、部室7
 - 北棟1階 シャワー室、洗濯場、部室8
 - 2階 部室14
- ☆テニスコート 5面
- ☆グラウンド 延面積 約9,600㎡

施設整備総合計画第三期工事

「精華キャンパス'95春」

ただいまセイカ春ゆらら。元気のセイカここにあり。(本館前にて)



中国・モンゴル自治区の文字書作品の贈呈式が六月一日本学で行われました。人文学部四年留學生のスー・チンドロン君の母君はモンゴル著名の書家であり、他に第一人者連と昨年七月日本で初めての文字書展を開かれたことは通信二号でお知らせしましたが、その作品群がすべて本



学に寄贈されることになったものです。竹べらや毛筆を使って縦書きで左から右へ行書しますが、この表音文字を読む人は今ではモンゴルでも多くありません。当日は各書家の揮毫実演もあり、本学のためにモンゴル文字の「自由自治」などの書が新たに書き加えられました。

モンゴル文字書 本学へ寄贈

京都精華大学公開連続論「知」の工房開催される

京都精華大学 公開連続論「知」の工房

11月10日(日) 午後1時～午後5時30分
11月17日(日) 午後1時～午後5時30分
11月24日(日) 午後1時～午後5時30分



一九九四年度京都精華大学公開連続論が十一月一日～一月間に開催されました。一九九二年から始まったこの対論は、大学を地域に開き、そのなかで大学そのものも検証する試みとして開かれたもので、多くの市民の方の参加がありました。「対論」は現在最先端の課題に触れた工房「知」の攻防となりました。

阪神大震災被災者援助基金 寄付状況

	3/23	5/15	5/31(現在)
教職員関係	60件	85件	85件
在学生関係	200件	488件	495件
卒業生関係	150件	252件	256件
新入生関係	10件	148件	153件
その他	0	1件	1件
合計	420件	974件	990件
総額	約950万円	約1920万円	約1940万円

京都精華大学留学生展覧会

京都精華大学留学生会主催の作品展覧会が、94年12月6日から11日まで京都国際交流館で行われました。留学生は交替で受け付けを担当しましたが、故国のことばで故国の参観者に説明するという光景も見られました。本学の多分野の作品が会場一杯に並びました。作品は陶芸あり、染めあり、コラージュ、マンガ、絵画、書、ありで、ひとつの会場にならぶと不思議なハーモニーを作り出していました。それぞれのお国柄がどこかに感じられ、国際的な鳥瞰図とでもいうような、第2回の展覧会でした。

アゼンブリアーアワー 講演会

一九九五年度

- 四月二〇日 上村淳之 氏 (日本画家・京都市立大学教授) 「花に想う、鳥に想う」
- 五月一八日 松岡正剛 氏 (編集工学研究研究所長) 「間と客の構造」
- 六月一日 中田幸子 氏 (アダムント社長) 「就職活動成功へのコツ」
- 六月一五日 四方田大彦 氏 (明治学院大学助教授) 「アジア映画を考える」
- 七月六日 石丸正連 氏

「美術館をめぐる話」 後期

(滋賀県立近代美術館館長)

94・12月1日 加藤周一 氏 「伝統と現代性」

九月二十一日

原 広司氏(建築家・東京大学教授)

94年12月15日 浅田 彰氏 「現代芸術論」

新・歓・キャン

(人文学部 斎藤 光)

今年も四月の六日から八日にかけて、人文学部の第五回新人歓迎キャンプが開催された。昨年に引き続き実行委員長は私学藤光が担当したが、キャンプ全般にわたる学生課の田中岳さんの応援をたのみ、さらに在学生の実行委員長石橋達也(人文四年)、副委員長長石橋達也(人文四年)、小林仁(人文四年)、大谷光(人文三年)、山本延江(人文三年)、石飛豊(人文二年)の六名が全面的に企画運営で力を貸してくれた。そのため準備などを中心に変えてくれた。そのように行いたいと思う。

キャンではグループ別の各種イベントとともに、例年通り、スポーツ広場やお祭り広場が設けられ、新入生同士、新入生と上級生、そして新入生と教職員の交流が、かならずうまくなされたのではないかと思っている。初めはキャンに参加することに不安を覚えていた新入生も帰りのバスではズットと精華大学に帰ってきたような感覚を共有するようになったのではないだろうか。キャンの目標である、精華構成員と新入生の交流はますます達成されたといっていられる。問題が残るとすれば、キャンはどうしても集団主義的になることであり、そのため個人で行動することをポリシーとする学生にとっては、こうしたイベントも苦痛になるかもしれないということだ。今後検討すべき課題かもしれない。

今回も教員によるミニ講義が二二講座ほど開かれ、ほんの少しではあるが大学の講義の雰囲気をつかんでもらうこともできた。また、今年から新たに、精華大学をいかに利用できるかなどをコンパクトに紹介する「精華の歩き方」という時間も設けられ、大学の生活に関して具体的な情報がつかんでもらう試みも行われた。

上級生リーダー九〇名余りの、このキャンプを盛り上げようという意欲とエネルギーは大変なものであり、キャンが成功した要因の多くは彼らの活躍にあるといっても過言ではない。もちろん、学長・学部長をはじめ教職員の方々の多方面での協力がなければ、これだけの規模のイベントをうまく進めることはできない。新入生の諸君には、キャンをおる種のきっかけとして、大学を利用し尽くすという活動に手をそめてほしい。講義での私語の増加といった形の影響もあるのではないかとこの声も耳にするが、学習や研究、課外活動の活性化へとつなげてほしい。

京都精華大学・大学院 1996年度入試日程

大学院美術研究科

<入試日>	11/27(月)～12/2(土)
<出願期間>	11/7(火)～11/17(金)
<発表>	12/9(土)
<手続き締切り>	12/19(火)

大学院人文学研究科

<前期>	試験日……9月30日(土) 10月1日(日)
	出願期間……9月11日(月)～9月21日(木)
	発表……10月6日(金)
	手続切……10月13日(金)
<後期>	試験日……2月24日(土)、25日(日)
	出願期間……2月5日(月)～2月16日(金)
	発表……3月1日(金)
	手続切……3月8日(金)

(担当窓口 教務課)

京都精華大学

1994年度決算及び
1995年度予算報告

概要

平成六年度の帰属収入は、前年度より約三億円増の四六億円でした。この内、学生納付金が約八四%を占めています。

これに対して、グラウンド造成及び体育館建設等、施設整備計画による第二期工事の進行に伴う施設関係支出等で十億五千万円を基本金に組入しました。

消費支出では、人件費及びその他の経常経費に約三億円。結果、四億六千二百萬円の収入超過（黒字）となりました。しかしながら過年度よりの累積赤字が約八億四千万円あり、依然として約三億七千万円の赤字を次年度以降に繰越しました。

平成七年度以降の課題は、この赤字を解消するとともに、図書・情報館の建設等、施設整備第二期工事の早期完成にあります。

臨時的定員の解消に対応して、三年次編入等新たな定員増の申請を實行しつつ、志願者の確保が至上命題となっています。

貸借対照表

平成7年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(11,443,206)	(10,090,570)	(1,352,636)	固定負債	(3,142,763)	(2,774,041)	(368,722)
有形固定資産	10,120,383	9,027,578	1,092,805	長期借入金	2,644,850	2,309,240	335,610
土地	3,071,064	1,925,652	1,145,412	退職給与引当金	497,913	464,801	33,112
建物	4,063,697	4,220,877	△ 157,180	流動負債	(1,461,647)	(1,726,068)	(△ 264,421)
構築物	686,804	758,088	△ 71,284	短期借入金	264,390	264,390	0
建設仮勘定	1,085,738	912,750	172,988	未払金	51,205	53,463	△ 2,258
教育研究用機器備品	673,008	705,212	△ 32,204	前受金	1,031,646	1,005,271	26,375
その他の機器備品	13,123	11,776	1,347	預り金	114,406	402,944	△ 288,538
図書	526,098	492,312	33,786	負債の部合計	4,604,410	4,500,109	104,301
車	851	911	△ 60	基本金の部			
その他の固定資産	(1,322,823)	(1,062,992)	(259,831)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
電話加入権	1,947	1,947	0	第1号基本金	9,863,226	8,821,807	1,041,419
長期貸付金	238,796	0	238,796	第2号基本金	0	0	0
有価証券	291,166	270,131	21,035	第3号基本金	150,000	150,000	0
退職給与引当特定資産	110,491	110,491	0	第4号基本金	223,000	213,000	10,000
減価償却引当特定資産	530,423	530,423	0	基本金の部合計	10,236,226	9,184,807	1,051,419
第3号基本引当資産	150,000	150,000	0	消費収支差額の部			
流動資産	(3,023,746)	(2,758,717)	(265,029)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
現金	2,827,559	2,347,537	480,022	翌年度繰越消費支出超過額	373,684	835,629	△ 461,945
未収入金	71,267	51,264	20,003	消費収支差額の部合計	△ 373,684	△ 835,629	461,945
短期貸付金	1,068	7,750	△ 6,682	科 目	本年度末	前年度末	増 減
有価証券	98,392	38,816	59,576	負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	14,466,952	12,849,287	1,617,665
立前払替り金	12,126	6,874	5,252				
前払金	11,299	4,400	6,899				
仮払金	2,035	2,035	0				
	0	300,040	△ 300,040				
資産の部合計	14,466,952	12,849,287	1,617,665				

1994(平成6)年度資金収支計算書

平成6年4月1日から
平成7年3月31日まで
(単位：千円)

収入の部		金額
科 目		
学生納付金収入		3,876,797
手数料収入		276,371
寄付金収入		38,175
補助金収入		285,510
資産運用収入		81,594
資産売却収入		30,221
事業収入		588
雑収入		45,038
借入金収入		600,000
前受金収入		1,031,646
その他の収入		428,833
資金収入調整勘定		△ 1,071,558
前年度繰越支払資金		2,347,538
収入の部合計		7,970,753
支出の部		金額
科 目		
人件費支出		1,828,771
教育研究経費支出		492,791
管理経理支出		298,274
借入金等利息支出		139,663
借入金等返済支出		264,390
施設関係支出		1,318,579
設備関係支出		68,459
資産運用支出		328,372
その他の支出		459,500
資金支出調整勘定		△ 55,695
次年度繰越支払資金		2,827,559
支出の部合計		7,970,753

1994(平成6)年度消費収支計算書

平成6年4月1日から
平成7年3月31日まで
(単位：千円)

収入の部		金額
科 目		
学生納付金収入		3,876,797
手数料収入		276,371
寄付金収入		40,699
補助金収入		285,511
資産運用収入		81,594
資産売却差額		221
事業収入		588
雑収入		45,038
帰属収入合計		4,606,819
基本金組入額合計		△ 1,051,418
消費収入の部合計		3,555,401
消費支出の部		金額
科 目		
人件費		1,861,883
教育研究経費		779,365
管理経費		300,590
借入金等利息		139,663
資産処分差額		7,868
徴収不能額		4,087
消費支出の部合計		3,093,456
当年度消費収入超過額		461,945
前年度繰越消費支出超過額		835,629
翌年度繰越消費支出超過額		373,684

1995(平成7)年度資金収支予算書

平成7年4月1日から
平成8年3月31日まで
(単位：千円)

収入の部		金額
科 目		
学生納付金収入		3,974,000
手数料収入		264,000
寄付金収入		49,000
補助金収入		285,000
資産運用収入		90,000
資産売却収入		1,100,000
事業収入		1,000
雑収入		5,000
借入金収入		540,000
前受金収入		601,375
その他の収入		154,692
資金収入調整勘定		△ 1,051,646
前年度繰越支払資金		2,827,559
収入の部合計		8,839,980
支出の部		金額
科 目		
人件費支出		1,890,000
教育研究経費支出		605,514
管理経理支出		311,278
借入金等利息支出		160,468
借入金等返済支出		264,390
施設関係支出		2,090,000
設備関係支出		198,610
資産運用支出		0
その他の支出		137,275
(予備費)		59,532
資金支出調整勘定		△ 41,299
次年度繰越支払資金		3,164,212
支出の部合計		8,839,980